

2009年

6月2日（火曜日） - 踏みつけられたものからの御恩への感謝 「社会資本整備を考える首長の会」 -

昨年秋、当時の道路財源の一般財源化の議論が高まる背景の中、地方の現場からこれに抗し国全体の道路財源の十分な確保を求めていくため、福島県相馬市の立谷市長の呼びかけにより、佐藤信秋参議院議員を顧問に囲み全国の多くの有志の首長が集まり、「社会資本整備を考える首長の会」が発足した。現在、50人近い首長の皆さんが参加されているが、私も参加させていただき、役員の一人（監査役）として活動を積極にしている。本市の将来の発展を考えると、自動車専用道路等の基幹道路の整備が極めて重要であることはいまでもなく、地方自治体の仲間の皆さんと思いと力を合わせて最大限に努力していく。本日、春の定例会が開催されたので、出席した。

ところで、たまに田舎から都会に出てくると、あたり一面、ビルか道路。道路もあたり一面とけこんでありふれているので、まるで空気か水のように本当はなくてはならないととてもありがたいものなのにそのありがたさに気づきにくいようだ。戦後の我が国経済社会の成長期はじめ我が国の発展も人や資源の交流の促進により遂げられてきたわけだが、その人流、物流を大きく支えてきたのがいうまでもなく鉄道や道路だ。道路は我々の生活や社会活動を不可欠に支えてくれているのに、普段はそれに気づかずに、ときにこれ以上は不要だといって逆に踏みにじられている。本当は支えられているのに、恩知らずに、文字通り、道路を踏みつけ踏みにじっている。マスコミ報道などで道路利権とか無駄な道路とか道路を巡り否定的な事柄が取りざたされがちであるが、そんな今こそ、改めてそんなことをふり返りながら、しっかりと原点にかえり、道路からいただいている御恩に感謝をいたしていくべきだと思う。道路を巡り問題がある部分はそれはそれでただしていく必要があるが、人の歴史の長い時間の中で今もなおいただいている道とその普請のうえに心血を注がれた数知れない先人の皆さんの尽きせぬ御恩に深く感謝の想いをよせていくことからこそ、将来への我々の歩みを創めなければならないのではない。